コンクールを主催したナホード市、中央広場からの景色

く者にとっては非常に忙しい時期 私達バイオリンに関係した職業に れ 多くの弦楽器に関 た。 今年の 幾つも オー 春も、 クションといった具合に、 の展示会、 E する催し物が開か 1 口 " 製作コンク 18 では実に

既に著名な製作家となったシ 楽しい旅行になること請け合いだし 若い彼らと一緒というのであれば れた。 いらなかっ 誘いに対 る最 人シメオネ・モラッ モナから同コンクー れるという情報を、 るバイオリン製作コン ル " これらの催 の全行程を視察できるのだ。 モラッシィらに同行してコンク 中に、 18 0 緒に出掛けようという彼の 幾 東欧チェ つかの都 返事をするのに時 心細い シィから知らさ ル イタリ コ 市を訪問 一で4 に参加する友 ク 人旅でなく T 日間に百 ル が開か 0 ンメオ 間は クレ 7 日

日 カル コの3人の製作家も行動を伴にする。 シメオネの他にジャンニ・モラッ 1 今回 この美 ルを主催した町 月30日、 7 ・ティ、 マントヴァのジョルジョ の国際バ しい街を1日観光した翌 私達一行はプラハに入 ヴァレリオ・プリリ 1 オリン ナホ 製作コン ・ド市 . " ス

> 漏 ル

うなヨーロ

ッパ

大陸の真ん中を、 無限に広がるかの

2 よ

我々は人

境も程近い。

も疎らな小さな町に到着した。 時間も走っただろうか

しに参加するため

かう。 車窓から見た素晴らしい景色には

息を呑んだ。見渡す限りの田園風

やかな丘。ここはポーランドとの

る。 受け付けを済ませなければならない。 れるに相応し 体、 さて、 るのか。 物が並んで さあ、 ホテル、 中央広場の周囲には教会、 国際製作コンクールが開 この人気のない町のどこで 街の中心に向かってみ 到着して休む間もなく い寡囲気を漂わせて L コンクールが開催さ ストランなど瀟洒な 市庁 催さ れ

第1日目

H

難關

伝わってきた。 されているのだ。 層な名目で会場に潜り込んだ。 だ彼らの友人でしかないが、 ている同行の4人とは違 れ のあちこちからバ コンクールの取材に来たと ホテルに次々とコンクー が到着する。 会場となった中央広場に面 る。 最後の調整、 リストに名前 否応なく緊張感が イオリンの音が 試奏が繰り V ル いう大 の載 日 私はた 参 木 本 加

参加したバイオリン29本が並べられ、 ホテルの一室の酒落たサロンに、 第1次審査が始まった。

ンを手に取り、 この日の審査では審査員がバイオリ わば総合評価といったところか。 くこともままならない厳重さである。 会場入り口には警備員が立ち、近付 当然の事かも知れぬが、審査中の 審査結果は迅速にコンピュータに 色彩、などを評価していく、 全体の造作、ニスの 言

> た。 らせていく方法が、大変好評であっ より集計され、掲示して参加者に知

サイタルが開かれる。 オリニスト、ヨゼフ・スーク氏のリ ホールで、 モニーとしてホテル内の大変美しい 夜7時半からオープニング・セレ チェコを代表する名バイ

このコンクールが開かれている期間 上品な紳士で会場は埋め尽くされ、 豪華なドレスに身を包んだ女性と

> 町の人々にとり大変な意味を持 正に巨匠のそれである。 思い知った。

まない拍手に何度も何度もアンコー 聴衆は大満足で、いつまでも鳴り止 ドヴォルジャーク、スメタナと、同 様な大変気持ちの良いコンサートに 立ち姿は、 ステージ上のスーク氏の堂々とした つという事をこの時、 巨匠スーク氏の暖かい人柄に触れた 国の作曲家の作品を交じえたものだ。 スーク氏が用意したプログラムは



ス左 るかがよく分かる せる。人々が如何にコンクールに注目してい憩時間には展示されたバイオリンに関心を寄 スーク氏のコンサートに集まった人々が、

からプリリッコ、ジャンー・モラッシィ、 筆者と行動を伴にしたイタリアの製作家、 カルマティ、シメオネ・モラッシィ。



ラッシィ氏、筆者 (グァルネリ・コピー)」を拝見した。左から 使用するバイオリン『ヤン・シュピードレン コンサート終了後、 スーク氏、シュピードレン氏、シメオネ・モ スーク氏の楽屋を訪ね、

ルに応える氏の姿がとても印象的で あった。

にとり、 機会を得る、という配慮があった。 リン・コンクール展示会場を開放 リサイタルの間の休憩時間を長め 聴衆がバイオリンを間近に見る ホールと隣合わせのバイオ

まれたオープニング・パーティーが ゲストとして、 見て参加した製作家達は、 機会となったことだろう。 や他の製作家との親交を深める良 開かれた。 奏を終えたスーク氏をスペシャル 程名誉であるか痛感したことであろ 1 リンを興味深く眺める。この光景を 着飾った人々が自分たちのバイオ ルで勝利を手にすることが、どれ そして夜も10時を回った頃、 製作家達にとり、 和やかな雰囲気に包 同コンク 主催者

第2日目

又過酷なものであった。 える、参加者にとって最も興味深く この日に行なわれた第2次審査こ 同コンクールの最大の特色とい

けるという作業を1日で、 らないのである。通常は2~3日掛 ンの頭部を一つ完成させなければな 人と競いながらというのは私達の想 朝8時から夜11時の間にバ それも他 1 才

ル製作競技 に詰めかけ、、 このコンクールの最大の見どころ、『スクロー の模様。終日、大勢の人が会場 メーカーの刃物さばきに注目

記念として保管しておきたいという製作家が ールと共に。スクロールはこのコンクールの15時間の『死闘』の末、作り上げたスクロ

ンサートの様子。4つの椅子の上にはバイオ3日目の晩、審査員スヴィェツェニー氏のコ リンが並んでいるのが見てとれる。







見事さといったらない。総合優勝よ クロールの模様が刻まれたカップの という事だ。コンクールの名称とス して言わしめたほどである。 りもこの賞が欲しいとモラッシィを た素晴らしい優勝カップが贈られる 銘産品ボヘミアン・グラスで作られ れるという名誉と、 さらにチェコ

り午後から競技会場へ出掛けてみた。 疲れをとるために十分な睡眠をと さて筆者はというと、溜まった旅

事はもちろんだが、優勝者のスクロ は訳がある。職人気質がそうさせる

ルが当地の博物館に展示・保存さ

ドからとび起き、勝負に挑む真剣な

ニ・モラッシィは早朝7時半、

のに、同室のシメオネ、

ジャン ベッ

像以上に至難の技だ。

遅くまで続いた昨夜のパーティー

十分な睡眠をとったとは言えな

表情で会場に向かった。

彼らをここまで真剣にさせるのに



に典味深いものであった。 て競技者達の情熱が伝わってくる実 クールといった、静かな、 格闘している様は、これぞ製作コン さな机とランプの前でスクロールと 30人程の製作家が、 用意された小 それでい

間前に作業を終えたのは、僅かに3 労の原因となっている様だ。 見て取れた。普段使用している使い 午後3時頃には、もう疲労の色が れた仕事机でない事が、 随分と疲 制限時

人程度だったと思う。

第3日目

勢が強さをアピールした。 がシメオネ・モラッシィとイタリア 間でささやかれていたとおり、 技』の審査結果が発表された。 位にジャンニ・モラッシィ、 朝には昨日の 「スクロ 1 ル製作競 第2位

ンが上位に浮上する可能性もあって に偶然『音』が大きかったバイオリ ら丹念に美しいバイオリンを作って 大きく変わってしまうからだ。 弾き手、聴き手によってその評価が 査であろう。バイオリンの『音 製作家泣かせなのが、 かしその反面、 製作コンクールの審査基準の中で 音が悪いのでは確かに仕方ない。 製作技術が低い 音響部門の審

は気が気ではない。 分の作品が弾かれるのか、 にも知らされておらず、一体い この審査の模様をホールで聴くこと ができる。審査される順序は当然誰 による音響テストだ。参加者は皆、 さて第3次審査、 バイオリン・ソ 参加者達

オリンに点数を付けてはみたが、 私達も実際に審査員同様、 位、2位を独占したポーランドのスウォデ

ィチカ・タデウシュ。日本では無名に等しい 非常に高い製作技術を持っている。

較するのがせいぜいだ。 それを数字で表記していくという作 が耳に残っている一つ前の楽器と比 いく、というのも大きな問題点だと この夜はヤロスラフ・スヴイェッ 私達の平凡な耳では、まだ音 ・を繰り返し聴かされることに 筆者にはほぽ不可能の様に思 音色の善し悪しを聴き分け、 どんどん集中力が低下して 単調なメロ 0 1 I

衆に理解して貰うというものだった。 ンを持ち替えて弾き、 ジ上に並べられ、 が開かれた。 小さいチェンバロを使用してバイ 伴奏楽器にピアノではなく、 趣味性に富んでいて、 プラハのバイオリンが4本ステー エツェニー氏のリサイタルは非常 ニー氏のバイオリン・リサイタル 審査員でもあったスヴ 曲ごとにバイオリ 音の違いを聴 18 20世紀 音量

オリンの音色の違いを伝わり易くす

画とも聴衆を大満足させた素晴らし るという配慮もあり、 いコンサートであった。 演奏内容、 企

第4日目

ろう、 が生じた。 蓋を開けてみれば順位に随分と変化 響テスト。3日目のバイオリン・ソ で出た結果と大きな違いはないだ 最終審查項目、 という参加者達の声をよそに、 ピアノ伴奏での

具合の った楽器が、ピアノの伴奏ではその いかにも新品のバイオリンといった の音に敗けることなく、審査員の耳 点を得ていた事が興味深かった。 に届く『強い音』と判断され、 「荒さ」がかき消され、むしろピアノ 前日のソロの審査で低い点数だ 音』というのは理屈ではない 『ザラザラした』荒い音のた



ヘミアン・グラスのカップを独占した。 大活躍だったジャンニ・モラッシィ。「スクロ ル部門優勝「ナホード市長賞」と2つのボ

スウォディチカ・タデウシュ。

第3

最有力優勝候補だったポーランドの

第1位、

第2位を独占したのは

結果発表

り混じった、複雑な心境で数時間を うとする最終結果を待つ緊張感が入 過ごした事だろう。 した安堵感と、 参加者達は全ての審査を無事終了 いよいよ発表され

交通アクセス至便の都心にある 明るく開かれた快適な芸術空間



JR2駅からともに5分という れた立地条件のもと、 スタジオを備え、 ==. ートや合奏・合唱練習に 最適な音響空間です。

可動90席対応の本格的リサイタ ごやかな音楽の集い 美術ギャラリーとしての 機能も完備しています。



スタジオ ヴィルトウオ 〒169 東京都新宿区百人町2-1 アバンティ21 内 16 TEL/FAX 03-3362-6482



